

令和元年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価（3月19日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の進路実現に向けた教育課程を編成するとともに基礎学力の定着と発展的な学力の伸長を図る。</p> <p>②多様な学習機会や学習形態を提供し、看護・医療・社会福祉の専門教育の充実と共に将来の職に求められる教養を身につけて</p>	<p>①(1)基礎学力の定着と発展的な学力の深化及び伸長を図る。 (2)令和4年入学生で完全実施となる新教育課程の研究・編成を行う。</p> <p>②(1)専門分野の更なる深化と学んだ知識や技能を実践する力を育成する。 (2)生徒の主体的な学びを促進するとともにポートフォリオに蓄積することで、深い学びにつなげていく。</p>	<p>①(1)週末課題の内容や、補習のあり方、Classiの活用方法などを検討し、基礎学力の定着に加え、発展的な学力の伸長と進路に応じた学力の深化を図る。 (2)各教科で教育課程を研究し、学校目標に沿った生徒の育成を目指し、必要な履修科目を検討する。</p> <p>②(1)高専連携による専門分野の学習のより一層の充実や技能検定取得者の増加を図る。 (2)Classiを活用することにより、日々の学習活動を蓄積し、主体的に学ぶ姿勢を育てるとともに、進路選択や振り返りに役立て、卒業後の進路決定に活用できるようにする。</p>	<p>①(1)定期テストの結果や基礎力診断テストの結果を通じて学力下位の者の減少・上位者の増加がみられたか。 (2)令和4年度入学生教育課程の概要ができたか。</p> <p>②(1)学校外における学習の単位認定について該当単位を取得する生徒の数が増加したか。 (2)主体的に学習する習慣がついたか。学習状況調査などの結果が上昇したか。</p>	<p>①(1)8月実施の1学年の基礎力診断テスト結果では4月段階から英国数の平均が少しだけ上昇したが、学力下位の人数は大きな差はなかった。2学年は1月に基礎力診断テストを実施している。 (2)現教育課程の考え方もとに大枠の検討中。</p> <p>②(1)英語、国語等で検定の呼びかけをしているが、受検者数が伸びていない。 (2)生徒による授業評価の調査結果を1回目と2回目と比較をすると、授業の中で身についた知識・考え方を生活の中で関連付けて考えることができないと答えた生徒が減少している。</p>	<p>①(1)一気に大きな変化が表れにくい部分である。地道に基礎学力の定着を図る。 (2)必修選択や学校設定科目の在り方について、現行カリキュラムと同様でよいのか、今後検討課題である。</p> <p>②(1)ボランティアによる単位認定数は他校と比較して非常に多いが、技能審査による単位認定数が伸び悩んでいる。生徒のモチベーションを高めて技能審査にチャレンジさせたい。 (2)生徒が主体となる授業が増えているため、知識や考え方を生活に活用することができる生徒が増加しているが、一方、授業について自らの考えを広げ深める機会が少ないという回答もある。さらに授業改善に取り組む必要がある。</p>	<p>①(1)専門職業人を目指す生徒にとって、基礎学力の定着は重要な課題。目的意識を持たせてほしい。 (2)カリキュラムについては、専門を目指す生徒の基盤となる科目の強化の見直しを期待する。</p> <p>②(1)技能審査の受験の促進にはモチベーションを上げる工夫が必要。また、演習・実習、体験発表などを通して専門分野の学びを深め実践する力を育成してほしい。 (2)生徒の主体的な学びを大事にする授業が増えていることやClassiの活用などが評価できる。主体的に考えて行動できる人に育てていただきたい。</p>	<p>①授業改善により生徒が主体的に学ぶ授業やICTの活用が多くなり、少しずつではあるが、生徒の基礎学力の定着や身に着けた知識の生活への応用ができるようになった。今後、さらなるICTの利活用や新指導要領の教育課程編成の工夫が必要である。</p> <p>②Classiの活用が少しずつ活発になっており、基礎学力の定着やポートフォリオによる学びの振り返りが定着した。様々なICTの活用ができる環境が整ってきたので、今後はそれらの活用を学校全体に浸透させる必要がある。</p>	<p>①新指導要領に応じた教育課程の編成で目的を達せられるよう工夫する。 ②今後もClassi等を利用した問題の発信や振り返りを行っていくとともに、授業内でのICTの利活用がさらに多くなされるよう環境整備を行う。</p>
2 生徒指導 ・ 支援	<p>①生徒の規範意識を高め、他者との協調性や自律する心を養う。</p> <p>②いじめ防止基本方針を実施して校内の安全を保つ。</p>	<p>①(1)生徒の規範意識・人権意識の高揚のために、挨拶・清掃・身嗜みの徹底をさせ、看護・福祉の社会的意義を理解させる。 (2)欠席・遅刻を生徒が自ら減少させるような意識を持たせる。</p> <p>②いじめを防止し、生徒一人一人が安心・安全に生活できる環境づくりに努める。</p>	<p>①(1)生徒の自主的なアイデアを生かした生徒会活動・委員会活動を活性化させる。 (2)授業の遅刻指導などを通して、看護・福祉の仕事では特に欠席・遅刻が許されないことを繰り返し指導する。また、遅刻カードの有効利用を図る。</p> <p>②平成30年4月改定のいじめ防止基本方針およびいじめ防止マニュアルによるいじめ防止に学校全体で取り組む。いじめアンケートの有効活用を図る。</p>	<p>①(1)生徒会活動・委員会活動が活性化したか。 (2)欠席・遅刻の数が減少したか。(5%減少)</p> <p>②「いじめ防止指導等年間計画」による取組が計画通り実施できたか。いじめの早期発見・早期対応により重大化を防げたか。</p>	<p>①(1)風紀委員会でのあいさつ運動を実施した。今年度は学校保健委員会を2回開催し、保健委員会だけでなく美化委員や生徒会も参加し自主的なアイデアを生かした生徒会活動・委員会活動を活性化させることができた。 (2)遅刻カードが生徒に浸透してきている。</p> <p>②7月にいじめアンケートを行い、組織Aで確認し、全職員で共有できた。</p>	<p>①(1)取り組みについて目的を明確化していく。 (2)学年が上がるにつれて遅刻数が増えているので、より一層の指導をしていく。 ②アンケート以外にも日常的にいじめ問題に取り組んでいく。</p>	<p>①(1)風紀委員会の挨拶運動は評価できる。大切なのは繰り返すこと。登下校時の行動や言動も指導が必要。 (2)時間管理は社会人・専門職業人として重要な要素なので、遅刻指導は評価できる。取組の意図を生徒に理解させると良い。 ②いじめアンケートによる取組を評価する。さらに生徒一人ひとりがいじめに対する捉え方を自己点検する機会を作るなど、保健・医療・福祉に携わるものとして、人間をどうとらえるかという視点で扱ってほしい。</p>	<p>①(1)複数の委員会において生徒の自主的な活動を活性化することができた。 (2)遅刻カードを記入する事で自覚を促す効果はあるので、地道に継続していく。 ②折に触れて集会などでSNSのルールを確認していることで、SNSの不正利用への意識は高まっていると思われるが、そのような不正利用がいじめにつながるという意識を更に植え付けていけるように取り組んでいく。</p>	<p>①(1)今後は更にこの動きが広がっていくようにしていく。 (2)遅刻の回数を重ねる生徒へは、新たな指導方法を検討したい。 ②いじめについてはアンケートによる取組に加えて、生徒の意識付けへの取り組みを行う。</p>
3 進路指導 ・ 支援	<p>①看護・医療・社会福祉などのヒューマンサービスに従事する人</p>	<p>①(1)ヒューマンサービスに従事する者としての資質の向上を図る取組をさら</p>	<p>①(1)生徒の自主的・自発的な進路選択をサポートし、情報が収集できるように、模擬試験の積極的な活用を促</p>	<p>①(1)各回の模擬試験の受験者が増えたか。また、データが活用できているか。小論文についての講座や模擬試験</p>	<p>①(1)3学年向けに6回、2学年向けに3回、共通の小論文模試を3回実施した。進路選択や実力の把握に活用できた。また、夏季休業中に3学</p>	<p>①(1)様々な分野の進路に対応できる模試を模索する。 (2)看護、福祉、両方の分野の説明が受けられ</p>	<p>①(1)模擬試験は必要だが、一人ひとりがヒューマンサービスの専門家を目指す理由や人間・環境・社会との関わりについて考える</p>	<p>①(1)模試や説明会、外部講師等によるガイダンスにより、進路に対する意識付けが行われ、入試に対応できる力が養成できた。看護、医療、</p>	<p>①(1)模試の模索とともに、計画されているガイダンスの積極的な活用を促す。 (2)進路指導におい</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		材を育成する。 ②「看護の心」「福祉の心」を培う教育活動を推進する。	に充実させる。 (2)進路のモデルを見つけ、キャリア形成のために必要な方向付けを行う。 ②進路実現のために、専門教科の学びを活かしたボランティアや体験活動の充実を図る。	す。また、授業・模擬試験・夏季講座等を通して、進路先でも活用できるような文章力を養う。 (2)卒業生による進路相談を発展させる。上級学校在学中の卒業生による相談では、学習の方法や進路選択の考え方、進路先への理解や意識づけを目的とする。新たに、就職した卒業生による相談の実施を検討し、キャリア形成の実際を学べるようにする。 ②進路を意識したボランティアや体験活動への積極的な参加を促す。	を積極的に活用できているか。これらの取組が進路決定に反映されているか。 (2)卒業生による進路相談により、進路選択の意識づけができたか。 ②進路を意識した体験やボランティア活動への参加者が増加したか。	年向け面接、小論文講座を実施し、意識づけを行い、入試に対応できる力を養成した。 (2)上級学校在学中の卒業生による進路相談会を実施し、進路選択の意識づけを図った。昨年度よりも参加者が増え、前年度の課題を踏まえた運営で、満足度を高めた。また、専門科目の授業において、様々な分野の職に就いている卒業生による講義等が行われ、将来像を描く手助けとなった。 ②進路を意識したボランティア活動に多くの生徒が参加した。保育、療育、地域活動・スポーツイベントのサポート等に携わり、職業体験を行い、進路選択に活用している。	るよう運営を工夫する。 ②進路選択に活かせるようなボランティア活動の指導を考える。	ことも面接・小論文に生かされるのでは。大学進学者が増えると良い。進路未定者を減らす取り組みを。 (2)卒業生による進路相談に加えて社会人となった卒業生による進路指導も取り入れると良い。 ②ボランティア活動に多くの生徒が参加しているのは評価される。自他理解を深め、進路選択につながると良い。「心を育てる」教育・支援に十分な時間をとれると良い。	福祉以外の分野への進路に対応する模試やガイダンスを充実させる必要がある。 (2)卒業生による進路相談会や授業における卒業生による講義などが、進路選択に向けての意識づけと進路決定に効果的な役割を果たした。進学後の進路変更などをなくしていくためにも、上級学校や職業に関する情報だけでなく、心構えや内面を築き上げる指導が求められる。 ②進路を意識したボランティアや自主的な体験活動が積極的に行われた。より幅広い分野の活動を体験し、広い視野で進路選択ができるように指導していきたい。	ても、支援者としての「心」を醸成するようなガイダンスを行ってきたい。 ②進路選択や決定につながる体験活動やボランティア活動への参加を啓発する。
4	地域等との協働	①地域の期待に応えられる学校づくりを進める。 ②地域と連携した防災体制の整備を具体化し、社会参画の意識を高める。	①(1)地域と連携し、生徒の委員会活動・部活動の発表の場を活性化する。 (2)学校運営協議会を活用し、地域の教育力を活かした取組を充実させる。 ②地域と連携した防災活動を実施する。	①(1)部活動・委員会による地域発表会やボランティア活動を充実する。 (2)学校運営協議会からの助言を取り入れ、内容の改善を行う。 ②周辺の県機関や自治会との連携を通して看護・福祉職における防災意識を育てる。また、実習先との連携を行い校外実習時の生徒の安全について考える。	①(1)発表回数、参加生徒の満足度、地域からの評価が向上したか。 (2)改善策に取組み、内容の改善ができたか。 ②地域の防災訓練への参加回数・参加人数・参加意欲が向上し、防災内容の共有がなされたか。実習時の安全について生徒の意識の変容があったか。	①(1)部活動等によるボランティア数が増えることはなかったが、例年通りの活発な活動は行えた。 (2)委員からのアドバイスにより改善を行うことができた。また、学校運営協議会委員による講演会を行ったことで生徒は今後の生き方について考えることができた。 ②具体的な説明を行わなかったため校外実習での生徒の防災意識を高めることができなかった。	①(1)学校運営協議会や地域連携部会委員からのアドバイスを受け、他の分野での活動を増やし教育活動に活かしていく。 ②来年度は資料を活用して指導を行い、外部での実習中の防災意識を高めていく。	①(1)地域との連携は十分に取り組んでいる。ボランティアについて、生徒が積極的に取り組める環境づくりを。 (2)学校運営協議会委員による講演会をHPに掲載しなかったことが残念。生徒を大事にしているという評価につながる。 ②地域の防災訓練への参加は良い。生徒が応急手当を指導したり、地域の方と「防災マップ」を作る研修を行うのも良いだろう。	①(1)コロナウイルス感染症対策により行事等の中止が続く、年度末の部活動ボランティアや地域連携が行なえず、回数としては減少した。それ以外は例年通りの活動は行えた。 (2)学校運営協議会委員からのアドバイスにより、今までにない活動を追加することができた。 ②新校舎に合わせた防災関係の改善の必要がある。	①来年度においても部活動や地域連携に活かせるような改善を図る。 ②生徒や教員の防災意識が高められるような防災教育を立案する。
5	学校管理 学校運営	①学校の特色のPRの充実を図る。 ②情報管理を徹底し校務処理の情報化を進め事故・不祥事の根絶を図るとともに、改修工事中の生徒の安全、安心な学校生活の確保に努め、円滑な学校教育の推進を図る。	①学校説明会等を通じ学校の魅力をHP等で発信していく。 ②(1)情報管理を含め、事故・不祥事の根絶を図る。 (2)改修工事中の生徒の安全、安心な学校生活の確保に努め、円滑な学校教育の推進を図る。	①(1)生徒主体の学校説明会を展開する。在校生による母校訪問の充実、FAX等の広報活動を行うことで中学校への周知を図る。 (2)魅力あるHPを維持することで、本校の魅力を発信する。 ②(1)事故防止会議を年間10回以上実施し、研修を通して事故・不祥事を他人事にししない取組を進める。 (2)仮設校舎での学校生活の安全を図り、改修工事終了後に、円滑かつ安全に校舎への移動が行われるよう、十分な計画と準備を行う。	①(1)学校説明会等の来校者へのアンケート結果から本校の良さが中実、FAX等の広報活動を行うことで中学校への周知が増えたか。 (2)HPの更新回数と、内容の充実がなされたか。閲覧数が増加したか。 ②(1)事故防止会議・研修が計画通り実施され、事故・不祥事に対する意識が高まったか。 (2)仮設校舎において、安全・安心な教育活動が行われたか。事故なく安全に校舎への移動が行われたか。	①(1)第3・4回学校説明会が悪天候で中止となり、参加者の延べ人数は減少したが、第6回学校説明会の内容の変更を行い丁寧に実施できた。 (2)担当者が工夫を凝らし昨年度より魅力あるHPを発信できた。学校説明会のアンケート結果よりHPを見て参加された中学生が多くいた。 ②(1)事故防止会議を19回実施した。また、外部講師を招きLGBTに関する研修を実施し人権意識を高めることができた。 (2)仮設校舎での教育活動では雨漏り等の問題があったが、迅速な解決に努めた。また、校舎棟への引っ越しは円滑に行うことができた。	①(1)本年度は内容の変更を行ったが来年度に向けて検証を行っていく。また、FAXを活用して広報活動を強化する。 (2)来年度は県内で統一されたHPになる予定である。その中でも、本校の魅力を発信できるようなHPにしていく。 ②(1)職員研修は効果的だが時間がかかるため、回数が限られる。職員による標語は昨年度ほど集まらなかったが、職員の意識をさらに高める工夫をする。 (2)仮設校舎の解体工事、グラウンドの改修工事に向け準備を進める。	①(1)県内唯一の看護の専門高校なので、学校説明会を校内だけでなく、地区外の中学校を訪問し説明するとよいのではないかと。HPはタイムリーに更新されており評価できる。県内で統一の形になっても個性を大事にしてほしい。スマホ対応にすることで中学生のアクセスを期待できるだろう。 ②(1)人権意識を高める研修ができたことを評価する。今後も定期的な研修を期待する。 (2)改修工事は事故もなく安全に配慮ができていた。	①(1)両科の内容を全員に見せるようにしたことは良かったが、今後も成果の検証の必要がある。 ①(2)担当者が、1年計画で行事・校内の風景等の写真撮影をして、HPの修正を行った。そのため魅力あるHPが維持できた。また、HPを活用して学校からの連絡を迅速に発信することができた。 ②(1)事故・不祥事防止に関して、学校運営協議会委員からのアドバイスを活かし研修の回数を増やすことで、職員の意識を高めた。 (2)仮設校舎での教育活動と工事終了後の引っ越しは計画通り無事に行うことができた。さらに全体的な情報共有と計画的な対応が必要である。	①(1)体験の内容をさらに厳選していく。 ①(2)県内で統一されたHPにおいても、本校らしさを伝えられるよう工夫を行う。 ②(1)事故・不祥事防止研修を定期的実施し、職員の当事者意識を高める取組をさらに進めていく。 (2)改修工事では全体で情報共有を図り、生徒の安全の確保と、学校教育の円滑な推進を図る。